

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」

実社会対応プログラム最終評価結果表

課題(研究領域)	共生社会実現をめざす地域社会及び専門家の内発的活動を強化するための学術的実践
研究テーマ名	認知行動療法のICT化とサポートネットワーク構築によるバリアフリーなメンタルケア
研究代表者	下山 晴彦
所属機関・部局・職	東京大学・大学院教育学研究科・教授
研究成果の総合評点：	<b>A</b>
研究成果に係る所見	<p>本研究は、ICTを活用し、利用者にとってアクセスを容易にすることでバリアーを低くしたメンタルヘルスケアシステムを実現することを目的として実施され、“トラウマバスターズ”や“ココロ・ストレッチ”などを開発した。</p> <p>認知行動療法の専門家と企業がこのような形で連携して新しいサービスを生み出したことは意義深く、学術面、人々のメンタルケアの質向上という側面のみならず、今後ますます進展するICT社会で、パーソナルなICTサービスやロボットのサービス開発などにもキーとなるノウハウとして活かされ得るのではないかと期待される。</p>

※ 「研究成果の総合評点」に対する標語は下記の通り。

- S. 事業の目的に照らして、期待以上の成果があった
- A. 事業の目的に照らして、十分な成果があった
- B. 事業の目的に照らして、相応の成果があったとはいえない
- C. 成果がなかった